

就労移行支援事業 定員 10名

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの利用

活動日数 246日 利用日数 412日 一日平均利用者数 1.67人

就労者 1名 (就労継続支援 A 型) 途中退所 1名

従業員等の人数

管理者 1名 サービス管理責任者 1名

職業指導員 1名 就労支援員 1名 生活支援員 1名 (非常勤)

利用者の人数

身体障害者 0名 知的障害者 1名 精神障害者 0名 計 1名

【就労移行の支援内容】

- 1、パソコン基礎の学び (Word・Excel・インターネット)
- 2、ビジネスマナーの習得 (挨拶・面接・考え方等)
- 3、一般常識を知ること
- 4、コミュニケーション能力を身につけていく
- 5、就労訓練 (実習)
- 6、外出訓練
- 7、機関への訪問 (ハローワーク・役所等)
- 8、施設外実習・就労

【結果】

平成 27 年度は就労継続事業 A 型への移行は 1 名の実績を上げましたが、一般就労へ移行する利用者はなく、ご存じのとおり就労継続事業 A 型は実績対象外となったいま、実質的に実績は上がっていないのが業況です。

集団面接会、ハローワークとの連携等を強化してきましたが、一向に重度の障害者の就職は大きな課題となっています。

又、利用者の確保を前面に強化してまいりましたが、実際には見学者又は実習者の訪問があるにもかかわらず、利用とまで至りませんでした。しかし、6 名の実習を行った結果 2 名は就労継続支援 B 型へ、2 名は生活介護へと計 4 名が他事業 (フリーダム創生) の利用者確保に繋がりました。

就労継続支援 A 型への実績が続いていましたが、今利用している方には一般就労への見学と実習を行うことが出来、一般就労に対する意識付けをしてきました。

パソコン特殊ソフト (イラストレーター・フォトショップ等) の習得に力を入れました。特

に名刺印刷業務は大阪市の協力もあって、大阪市長の名刺作成依頼を受けることができ印刷業務を家庭用の物から業務用に移行し、一般でも活用できるようにしました。

【課題】

利用者と保護者、支援者の三者が利用者（本人）の障害程度や作業レベルの評価の違いがあり、なかなか方向性が見出せないことがありました。

就労移行事業の訓練は2年間でその間に就職をすることを課せられていますが、この就労移行事業を利用する障害者にとってはあまりにも短い期間です。

また、フリーダム創生のイメージとして、作業所時代、授産事業時代のイメージが強く、脳性麻痺の障害者が対象、一般就労が難しい方が対象のような感じが抜け切れない為か、一般就労を目指している方の利用が少ないのかもしれませんが。しかし一方、他の移行事業は多くの利用者を確認し、実績を上げているのも現状です。

レベルの高い（障害が軽度）の方に来てもらうのも課題の内ですが、フリーダム創生として重度の障害者がどのように働き、就労していくという宿命を背負いながら考えていく必要があります。

職員一同、利用者さんの就労のために、全力を尽くしたいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。